畄 Ш 和 雄 君

作 曲

汚れなき心を慕ふ大いなる支笏の湖より 旅の日ははや暮れゆきぬ夢に酔ひ夢にぞ歎かんだ。 漕ぎ出づる愛奴の漁舟の岸辺佇ち沁々眺む に 星 に 星 じ 一の散るなり幽けさよ松の火燃え って

花若く我汝が許に希望満ち今宵宿らんはなかかかれないもといのでみみしてよいやと

けるかの雄叫びよ創造の歴程一路。 しき使命に捧ぐ幸の今日にしあれば

若き世の秩序を背負ふ洋々の日と倶にゆかなむタポー ポー トラロール サーボー ドラーダ ロート トール 忍苦して欣求むるところ得べくして得べからざりし

葉脈の強きを讃ふ草々のたふれ生れて 決意する光眩ゆく手に取りぬ楡の嫩葉はつい 

春青み辛夷咲くなり逍遙の原始林蔭清くはるもれる。 こぶしさ きずらか も り かげきよ 暢び行かん我が民族の 逞 しき息吹き感じぬ

甦生へる征覇のいくさ祝歌ふ吾等が双類に は著うた もれら ほほ 失はじ高きが矜持護り来し伝統の法火 燦めきの星辰は語らひ微香る大地 囁 きぬき 立て歩め光の中を国民の重き責任負ひた。

はいますが、ながいくにたみ、はも、せいがお

浄らかに燃え熾る刻継ぎ行かな来ん若人にいます。 まきょう しゅうこう きょうじ